

**【交通拠点の状況】**

①長坂駅  
長坂駅では、JR中央線、北杜市民バスが接続しています。この接続により、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、旧小淵沢、旧大泉村、旧須玉町、長野県方面への移動が可能となっています。

②小淵沢駅  
小淵沢駅では、JR中央線、JR小海線、北杜市民バス、小淵沢駅周辺、旧白州町、旧大泉村、長野県方面などの観光地へのシャトルバスに接続しています。この接続により、通学、通院、買い物、観光などを目的とした甲府市、旧白州町、旧大泉村、旧長坂町、長野県方面への移動が可能となっています。

**【バス路線の再編状況】**

(北杜市)  
北杜市は、8町村が合併した本県で最も広い市であり、公共交通は、JR中央線とバス事業者による路線バス、市で運行している北杜市民バスが運行されています。

平成28年4月から北杜市民バスの小淵沢・長坂線、小泉・長坂線が再編され、商業施設や公民館を経由する路線となりました。この路線再編により、通学、通院、買い物の利便性が向上するとともに、観光客の二次交通としての利便性が高まり、利用者の増加につながっています。

さらに、平成28年10月からは、市民が短時間で目的地まで移動できるよう、従来は右回りのみであった南部巡回線に左回りを加え、双方の巡回線としました。

この路線再編により、移動の目的地までの移動時間の短縮が可能となり、通学、通院、買い物の利便性が向上しました。

ハケ岳定住自立圏共生ビジョンに基づき、北杜市の北部地域と生活圏の結びつきがある長野県富士見町と圏域内の住民の移動手段を確保するために連携を図っていきます。

市内の公共交通の現状、問題点・課題を踏まえ、公共交通ネットワークを再構築するため、平成29年度から北杜市地域公共交通網形成計画の策定に向けた検討を進めます。

図4 - 8 峡北地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況



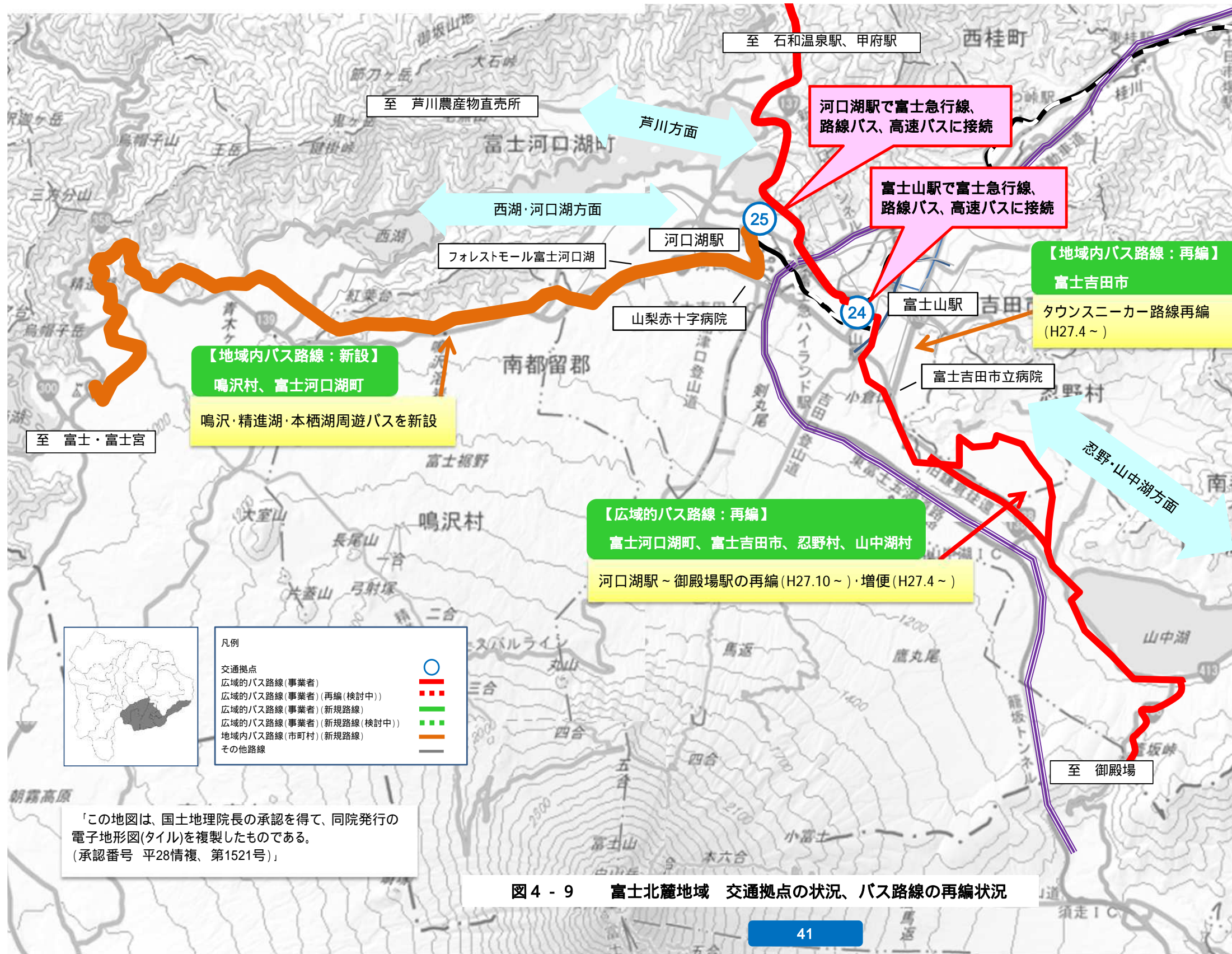


図4-9 富士北麓地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況



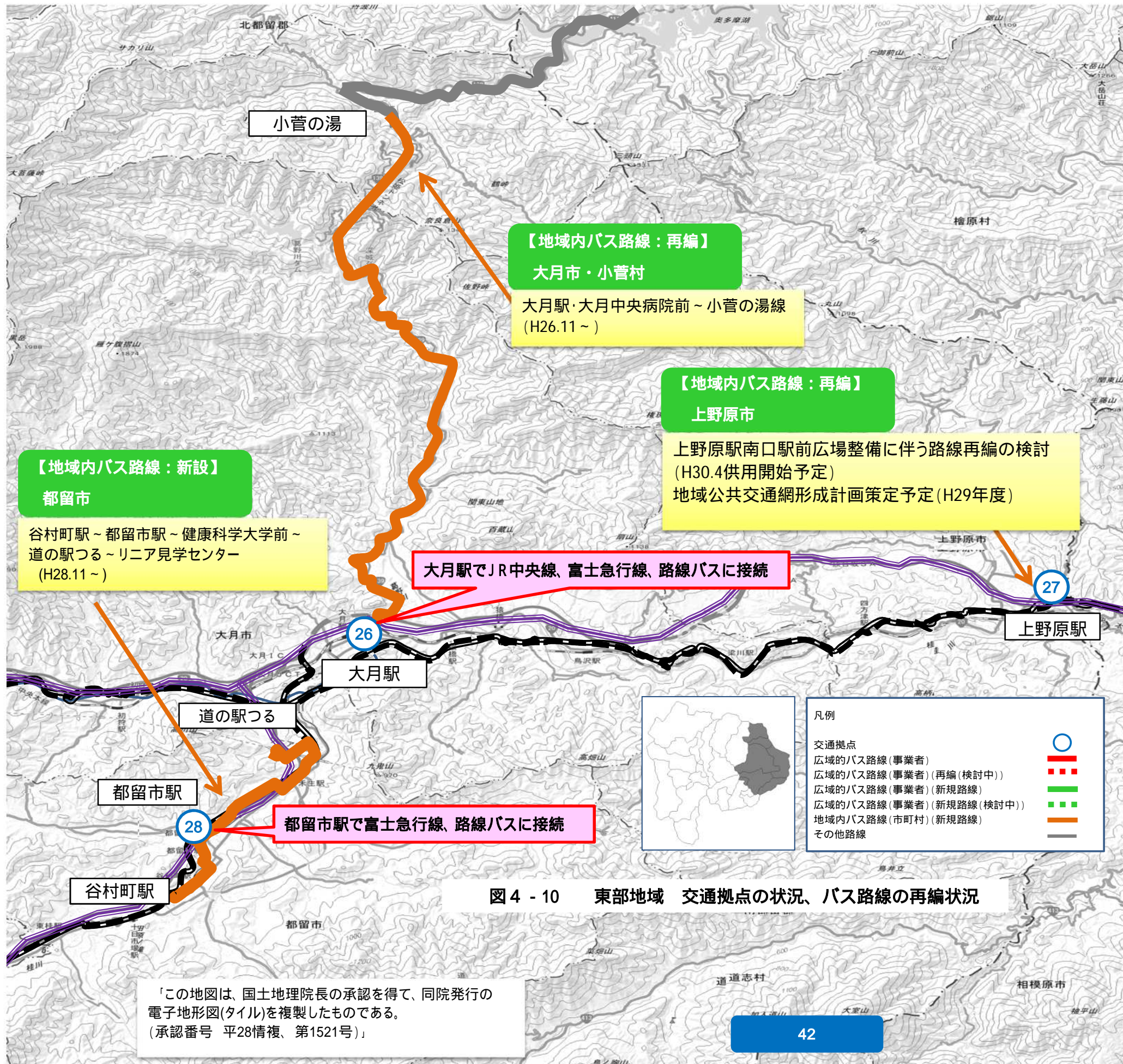


図4-10 東部地域 交通拠点の状況、バス路線の再編状況

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平28情複、第1521号)」

**【交通拠点の状況】**

②6大月駅  
大月駅では、JR中央線、富士急行線、大月市内、小菅村方面の路線バスが接続しています。この接続により、通学、通院、買い物などを目的とした甲府市、上野原市、小菅村、東京都方面への移動が可能となっています。

②8都留市駅  
都留市駅では、富士急行線、都留市内を運行する路線バスが接続しています。

**【バス路線の再編状況】**

(バス事業者)  
平成26年11月に大月駅・大月中央病院前～小菅の湯線が再編され、大月駅に接続しました。この路線の再編により、小菅村、大月市方面の通学、通院、買い物の広域的な移動が可能となり、観光客の移動手段の利便性も向上しました。

(都留市)  
都留市内では、平成28年11月の「道の駅つる」のオープンに合わせ、谷村町駅から交通拠点の都留市駅、都留市立病院を經由し、健康科学大学、道の駅つる、リニア見学センター間を1日、4往復するバス路線を新設しました。  
この路線は、通院、通学、また、道の駅やリニア見学センターへの観光客の移動手段として利用されています。

(大月市)  
平成26年11月の松姫トンネルが開通に併せて、大月市立中央病院から大月駅を經由し、小菅の湯を約1時間で毎日3往復する路線バスの運行を始めました。  
この路線は、小菅村から大月市立中央病院への通院、大月市方面への通学、買い物など地域住民の日常生活の移動手段として、また、多摩川の源流に位置し、自然の魅力あふれる小菅村への観光路線として、地域の活性化に寄与しています。

(上野原市)  
平成28年3月に策定した上野原市総合戦略では、上野原駅の南口駅前広場の整備に伴い、駅前の賑わい創出・拡大を視野に入れた、駅南地域の開発に取り組むこととしており、平成29年度末までに上野原駅南口広場の整備を行い、併せて、市各方面から上野原駅南口に乗り入れる路線バスの経路の見直しなどの検討を行うこととしています。  
市内の公共交通の現状、問題点・課題を踏まえ、上野原市総合戦略などが目指す将来像を実現していくため、平成29年度から上野原市地域公共交通網形成計画の策定に向けた検討を進めます。